

このたびは東芝パッケージエアコン用ドレンアップキットをお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。
取り付けの前に、この説明書をよくお読みになり、正しい取り付けを行ってください。
取り付け工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認してください。
この取付説明書を必ずお客様に渡して、保管いただくように依頼してください。

TOSHIBA

ドレンアップキット取付説明書

形名
TCB-DP32D

警告

取り付けは、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する
ご自分で据え付け工事をされて不備があると、水漏れや感電・
火災の原因になります。
取り付け工事は、この取付説明書にしたがって確実に行う
取り付けに不備があると、水漏れや感電・火災の原因になります。
再設置する場合は、販売店または専門業者に依頼する
取り付けに不備があると、水漏れや感電・火災の原因になります。



“安全上のご注意”については、東芝パッケージエアコン（天井埋込形）
ダクトタイプの据付説明書、取扱説明書をご覧ください。

取り付け時のお願い

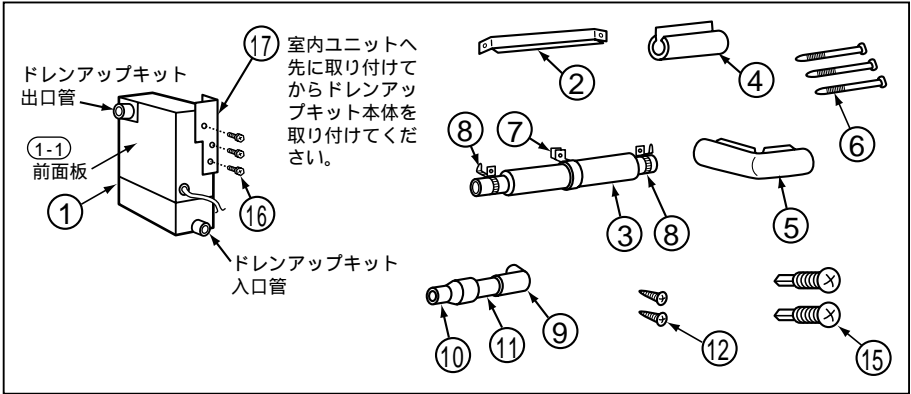
取り付け工事の際、板金端面による切創などのけが防止のため、保護具をつけて
作業してください。

取り付け可能機種

天井埋込ダクト形室内ユニット
MMD-AP2241H, AP2801H
-AP2243H, AP2803H

構成部品

No.	品名	数量	No.	品名	数量
	ドレンアップキット本体	1		継手（エルボ）	1
	支持金具	1		異径ソケット	1
	ホース（断熱パイプ付）	1		ストレート管	1
	断熱パイプ	1		タッピンネジ（4×10φ）	2（予備1個）
	エルボ断熱材	1		ドリルネジ（4.2×13φ）	2（予備1個）
	結束バンド	3		座金付六角ボルト（M6×12φ）	3
	固定バンド	1		ドレンアップキット取付板	1
	ホースバンド	2			



お願い

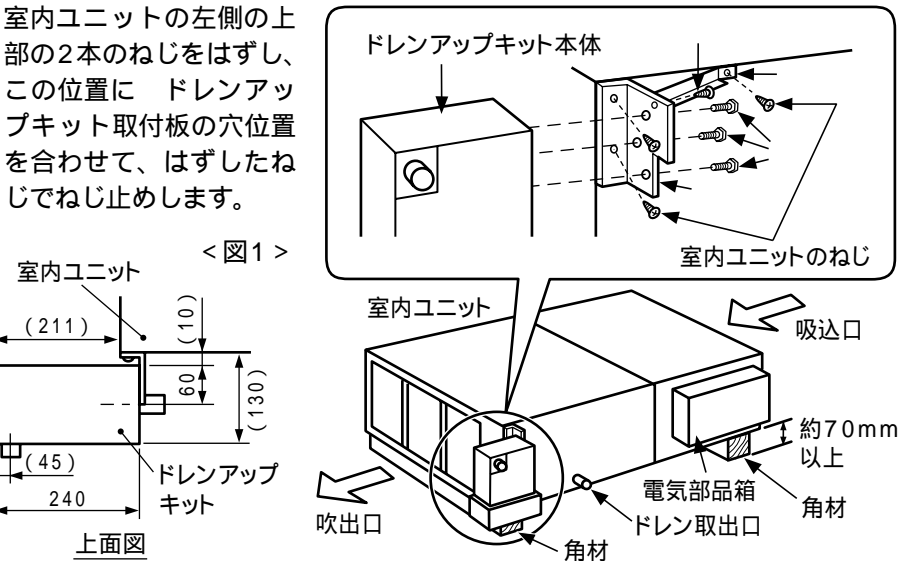
ドレンアップキット本体の取り付けは、必ずこの取付説明書に記載されている方法にしたがい、正しく行ってください。
他の方法で取り付けますと、ドレンアップキット本体と室内ユニットとのドレン皿の位置がずれ、水漏れの原因となります。
室内ユニットの水平度を確認してください。（水平もしくはドレン取出口側が1°以内で下方に傾斜して据え付けられていることを確認してください）
ドレンアップキット本体の下面天井部近傍に必ず点検口を設けてください。

取り付け方法

1 室内ユニットの準備

床面でドレンアップキットの取り付け工事をする場合は、ドレンホースを取り付ける為に、必ず、室内ユニットは高さ約70mm以上の木材等の丈夫な角材に乗せてから作業に移ってください。

2 ドレンアップキット本体の取り付け...図1参照



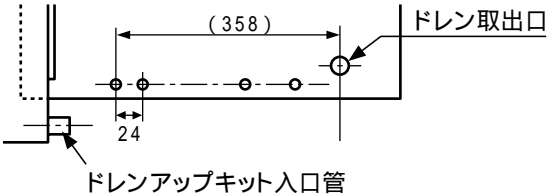
ドレンアップキット取付板と室内ユニットとを 支持金具で固定します。
（付属の タッピンねじおよび室内ユニットのねじを利用してください）
ドレンアップキット本体を 座金付六角ボルト3本で固定してください。

3 継手の接続...図2参照

継手（エルボ） ストレート管、 異径ソケットに塩ビ用接着剤を使用して接続してください。
室内ユニットのドレン取出口にテフロンシールテープ等を巻いて、上記の 継手組み込み部品をねじ込んでください。水漏れの原因にならないように 継手（エルボ）側を持って作業してください。
継手は 異径ソケットを60～100Nmで締めつけ、 固定バンドの位置に合わせ下方に向くように取り付けください。
（ホース部にドレン排水の勾配を設けるためです）

4 固定バンド用の穴あけ

固定バンドを取り付けるために、ドレン取出口から358mmのところのねじを取りはずして、その横の24mmの位置に ドリルネジで下穴をあけてください。
（電動ドライバー使用の際、ねじ山がつぶれて、ねじ締めできなくなるおそれがありますので、穴があいたら電動ドライバーの使用を止めて、最後は手締めで行なってください）

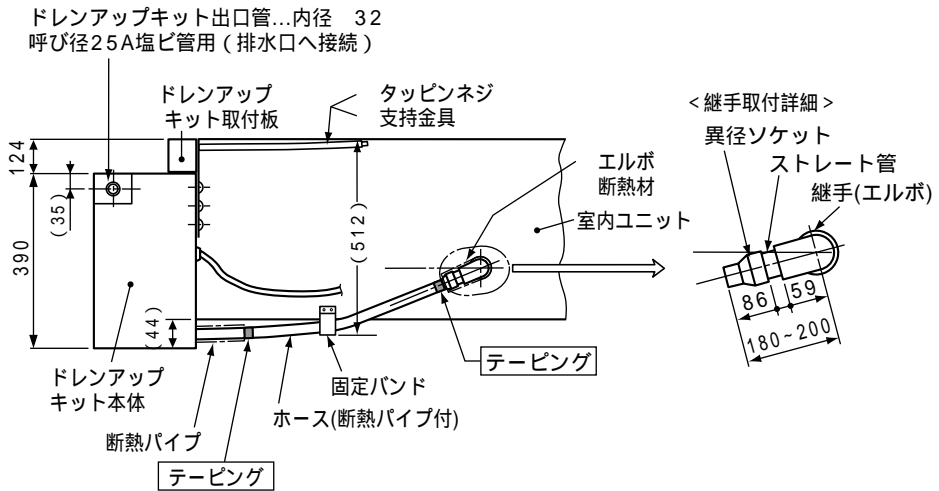


5 ホースおよび固定バンドの取り付け...図2参照

異径ソケットとドレンアップキット入口管を ホースで接続し、両端は ホースバンドで締め付けます。 ホースは継手に25mm程挿入してください。
固定バンドを取りはずしたねじと ドリルネジで2カ所固定してください。
塩ビ継手部およびドレンアップキット接続部のホースは、付属の 断熱材で断熱します。なお、断熱材の接合部はテーピングして断熱を完全にしてください。

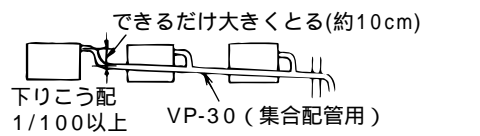
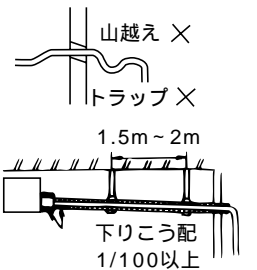
お願い	固定バンドはドレン排水の勾配を保つ為のものです。確実に固定してください。 ドレンホース（断熱パイプ付）を接続する場合、 継手は 固定バンドに向けて取り付けてください。 継手を上に向けたり極端に下に向けたり、また、 ホースを折り曲げたりしないようにしてください。
-----	---

<図2 取り付け要領>



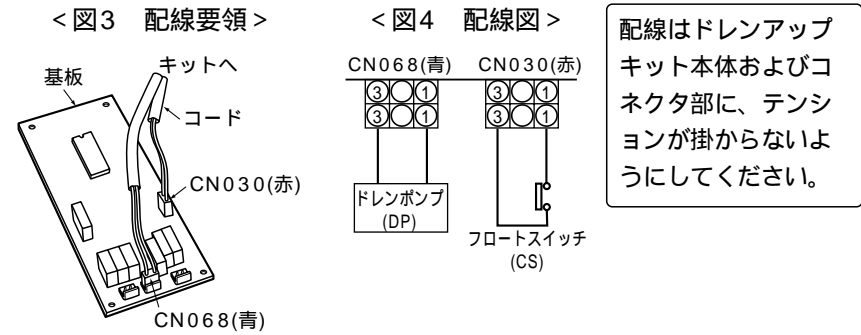
6 ドレン配管

ドレン配管はドレンアップキット出口管より高く据え付けないでください。
ドレンアップキット本体のドレンアップキット出口管からのドレン配管は必ず下り勾配(1/50～1/100)にして、途中に山越え、鳥居配管、トラップなどのドレンポンプの負荷になるものは設けないようにしてください。
（また、ドレンアップキット出口管に無理な力がかからないように、たるみ、ゆるみが出ないように支持固定してください）
ドレン配管は水滴落下防止のため必ず10mm以上の断熱材で隙間なく断熱し、また、ドレンアップキット出口管の接続部も必ず断熱してください。
ドレン配管の横引きは20m以下にしてください。
配管が長い場合は、1.5～2m間隔で支持金具を設け、波打ちを防止してください。
集合配管は右図のように施行してください。
エア抜き管は付けないでください。
ドレン水が吹き出し水漏れの原因となります。



7 配線...図3・図4参照

室内ユニットの電気部品箱のカバーをはずします。
電気部品箱内のCN068（青）にドレンアップキット本体の3Pコネクタ（青）を差し込みます。
電気部品箱内のCN030（赤）にドレンアップキット本体の3Pコネクタ（赤）を差し込みます。
*PC板に差し込んである短絡コネクタは取りはずしてください。
（短絡コネクタは使用しません）
（コードは室内ユニットの電気部品箱内で 結束バンドによりたるみのないように固定してください）



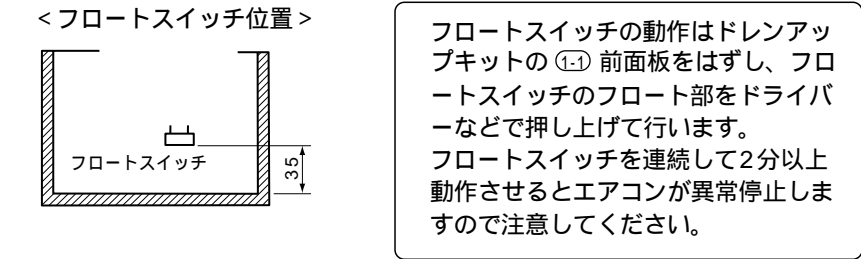
試運転

ドレン排水状態の確認

電気工事・配管工事終了後、冷房運転をしてドレン水または加湿余剰水がスムーズに排水することを確認します。
室内ユニットを長時間冷房運転できない場合は、室内ユニットのドレン皿に水を注水して、ドレン水がスムーズに排水することを確認します。
各接続部から水漏れのないことを確認します。

フロートスイッチの動作確認

冷房運転中、④-① 前面板をはずしフロートスイッチを動作させます。
ドレンポンプは運転したままで室内ユニットの運転が停止することを確認してください。
冷房運転停止後、フロートスイッチを動作させます。
このときドレンポンプが運転してドレン水を排水することを確認してください。



保守・点検について

室内ユニットおよびドレンアップキット本体を、いつも完全に機能させるためには正しくご使用いただくと同時に、定期的な保守点検が必要です。特に、室内ユニット、ドレンアップキット本体および付属のホースについては汚れやすいので、1回/年、必ず冷房シーズン前にドレン皿等の汚れ具合をチェックし、汚れがひどい場合は掃除を行ってください。
お客様とご相談のうえ、ぜひ保守点検契約することをおすすめします。